

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム ひだまり上郷

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390800084		
法人名	株式会社 WAKABA		
事業所名	グループホーム ひだまり上郷		
所在地	〒028-0771 岩手県遠野市上郷町佐比内第46地割23-2		
自己評価作成日	令和6年1月22日	評価結果市町村受理日	令和6年11月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・家庭での味を味わって頂きたいので3食手作りしている。季節感を大事にしたいので旬の食材を提供するよう心掛けている。</p> <p>・利用者様それぞれの個性を大事にしたレクや楽しみを提供できるよう努力している。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>市の中心部から東に11kmほどの上郷地区にある1ユニットの事業所である。近隣には小学校、保育園、地区センターのほか、市の社会福祉協議会が運営する介護事業所がある。令和3年に、開設以来7年ぶりに理念を見直し、「その人らしい生活」と「地域との結びつき」という二つの柱からなる新しい理念にもとづきケアを実践している。職員間のコミュニケーションもよくとれ、家族の信頼も厚い。利用者の大きな楽しみの一つである食事は、職員自ら献立の作成と調理を行い、地元産直で調達する旬の食材を利用した食事で季節を感じることができる。保育園児や児童館の小学生が訪れて交流するなど、地域との交流が、コロナ前の状態に戻りつつある。外出支援は、天気の良い日は事業所の周辺を職員と一緒に散歩したり、春は花見、秋は紅葉と季節の風景を楽しんだり、馴染みのある市街地をミニドライブするなど、関係継続の支援にも配慮がみられる。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年2月2日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : グループホーム ひだまり上郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者のその人らしい生活ができる場所であるよう心掛けている。	開設7年経過を契機に、令和3年4月に職員全員が話し合って新しい理念をつくり、事務所などに掲示して共有している。この理念に基づき、例えば職員が利用者と毎日一緒に体操するなど、その人らしい生活ができる場所となるように実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染拡大により、近隣の住民の方との交流・付き合いは出来なかった。(挨拶程度)	コロナ禍で久しく地域との交流が途絶えていたが、近所の保育園児や児童館の小学生が訪れているほか、以前から協力関係にあるボランティア団体が再び訪れ日本舞踊を披露している。近所の住民も野菜などを持参するなど、地域との繋がりも少しずつ以前の状態に戻りつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は住民の方(主に老人クラブ等)と利用者の交流を通じて、認知症の方への理解を促していたが今はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議は現在中止している。代わりに、現在の状況を文書にて委員と地区センターに配布している。	コロナ禍で推進会議は2か月に1回の書面開催としている。委員は、区長など地域住民の代表、市職員(健康長寿課介護保険係)及び入居者家族代表である。利用者の状況、職員の研修や異動、行事などを報告しているが、委員から意見は寄せられていない。	コロナも徐々に収まりつつあることから、対面形式の会議再開を模索するほか、例えば消防署員を呼んで災害対策の意見をもらうなど、これまでのやり方とは違う切り口で開催するのもサービス向上につながると思われます。開催方法の工夫を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何か疑問点・困りごとがあるときは、市町村担当者や社協へ相談し問題解決している。	市の長寿福祉課の担当者が運営推進会議の委員に就任しているほか、地域包括支援センターからは待機者の情報を随時得ている。浸水被害の怖れがある時には、市の担当者が隣接する社会福祉協議会運営のデイサービスセンターと一緒に避難出来るよう調整などもしてくれている。コロナワクチンの接種など感染対策についても市の支援を得ている。	

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム ひだまり上郷

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体が身体拘束について理解している。時折、職員会議において今一度確認している。指針・同意書に従い年4回開催しているが、書面としては残していない。	身体拘束に関する指針をつくり、管理者とケアマネジャーによる委員会を年4回開催しているほか、職員会議に合わせて年2回研修を実施している。その中で、個々の職員に身体拘束の有無を確認している。欠席者には資料と結果を回覧している。スピーチロックに気づいた場合は、管理者が個別に注意している。危険防止のため離床センサーを2人使用している。玄関は夜間のみ防犯のため施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を適宜職員会議時に行っている。新人の職員にはその都度他職員が指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援を利用されている方がいるため把握している。成年後見制度は、これから利用される予定の方がいるので勉強中。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明はその都度必要に応じて対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望を常に反映できる取り組みを心掛けている。	家族が面会や利用料の支払いなどで来所した際に意見を伺っている。半数以上の利用者は意思伝達が可能であるが、他の人は仕草や表情のほか二択で選んでもらう方法で要望などを把握している。外出や手伝いなどに関するものが多く、出来るだけ実行できるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で直接代表に意見・提案の機会を持っている。	毎月職員会議を開催し、代表者や管理者が職員の意見を聞いているほか、会社の代表者が職員と年1回個別面談を行っている。主な意見や提案としては、行事の効果的な開催方法、勤務時間、物品の購入などである。災害に備えた水の備蓄の増は、職員の提案によるものである。	

事業所名 : グループホーム ひだまり上郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与は毎年少しずつアップしている。職員の確保に難儀しており、職員にしわ寄せが行っている状況。正職員を募集しているがなかなか難しい為パートを雇用した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に関しては前向きに取り組んでいるが、職員の勤務状況が厳しい為、外部研修は行えていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は少ないのが現状。シフトが現在ギリギリの状態にあり研修会参加もコロナで実施していない。		

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り利用者様の声を聴き、本人が安心できる関係づくりを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問時に家族様の困っていること、不安に感じる事、見えないところを聞き取りするよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に訪問し、本人・家族の聞き取りを行い入所やサービスの説明をするよう対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限り一人一人に寄り添った対応、関係づくりを考慮している。		

事業所名 : グループホーム ひだまり上郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍にて行事などは出来ていないが、電話で状況を説明し理解を求めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ問題で制限があり、なじみの関係が少し途切れています。短時間の面会は解除している。(玄関先や相談室で15分程度)	家族が面会や外来受診同行のため来所するほか、知人が訪れてくれる人もいます。ドライブで家、神社、ショッピングセンター、駅など馴染みの場所の近くに行くこともある。神社では直接お参りする利用者も以前いた。2か月に1回の訪問理容サービスは、新たな馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格などを把握し、楽しく会話できるよう座席などの配慮を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を把握し、本人らしく暮らせるように支援している。	半数以上の利用者は自分で意思の伝達が可能であるが、困難な人は仕草や表情のほか二択で選んでもらう方法で希望などを把握するように努めている。利用者の希望は、外出、食べ物、趣味活動などであり、可能な限り支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしを本人や家族から聞き取り、生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日便生活の中から本人の生活リズムを把握し支援を行っている。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム ひだまり上郷

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議などの中で利用者の状態確認や支援方法について意見交換を行っている。	入居時にはケアマネジャーがアセスメントを経て原案を作成し、職員会議で話し合っ決定している。その後は3カ月、以降は概ね6カ月ごとに全職員がモニタリングに関わって見直しを行っている。その都度、家族の意見も反映するようにしている。見直した計画は家族の来所時に説明するほか、遠方の場合は電話連絡したうえで郵送している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察や記録をし、お互いの情報を共有して会議などで話し合いながら介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な受診で家族が対応できない場合は施設で対応を行っている。可能な場合は家族にも同行してもらい現状を見える様に努力している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々とのつながりを大切にしている。利用者が施設周辺を散歩していると、地域の方も気軽に話しかけて下さる。感染症対策の為交流はなかなかできない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回の訪問診療を行っている。家族対応でかかりつけ医を受診している利用者もいる。	9人の利用者中7人が協力医による訪問診療を受けている。他の2人は家族が同行して市内の病院に通院している。眼科や耳鼻科などの専門診療科を受診する場合は、原則として家族が付き添うこととしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常駐していないため、普段の利用者の状態を職員が把握している。小さな変化でも対応できるように全職員で情報共有を行い、何かあった場合は訪問診断の医師に相談、または救急外来を受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の場合職員が付き添い、医師・看護師と情報交換を行い、連絡は密に取るように心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りは行っていない。重度化した場合、または介護度が3になった時点で、市内他施設への申し込みをしている。施設が見つかるまでの間は家族と連絡を取り合い、可能な限り支援を行っている。	入居時に看取りは行っていないことを家族に説明している。介護度3を目途に特養などの施設への申込みを家族にお願いしている。容態が急変したときには家族に連絡するとともに速やかに救急車を呼ぶこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の状態を見て、申し送りや職員会議で話し合い対処するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々と話し合い協力をお願いし、職員全体体制で協力する。備蓄品は水・米・カセットガスコンロ・反射式ストーブを用意している	災害に備えて避難訓練を年2回実施している。そのうち1回は夜間想定とし、消防署に立会を依頼し、地区の自治会長の協力も得ている。ハザードマップ上で浸水想定区域になっているため、市から10kmほど西の遠野健康福祉の里への避難指示があった際には、隣接の社協運営のデイサービスセンターの協力を得て避難している。3日分の食料、水、カセットコンロ、反射式ストーブを備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者に対して人権を尊重し、声掛けやプライバシー確保に心掛けている。	「その人らしい生活ができるケアを提供します」との理念に基づき、利用者の経歴に合わせたケアを実践している。敬語を使うようにしているほか、入浴や排泄時にはさりげない声掛けをしている。個人情報を含むファイルは事務所に厳重に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で本人の思いや希望を受け入れ、自己決定できるように声掛けをしている。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ひだまり上郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者主体であることを意識し一人一人のニーズに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを聞き出し、行く場所や内容に合わせて支援している。しかし、完璧に叶えられてはいない		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを聞いたり、献立を時には一緒に考え、準備や片づけをして頂いている。	職員が献立をつくり毎日3食とも手作りで調理している。産直などから旬の食材を調達して季節を感じてもらっている。行事食としては、ひつつみなどの郷土料理、刺身、赤飯など出しているほか、誕生日には手作りのケーキをつくって喜ばれている。利用者は下ごしらえやテーブル拭きなど自ら希望して手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定の結果を注意し、一人一人の食事量や水分量を常に心がけ支援している。(糖尿等)問題がある方は主治医の指示を仰いでおり、必要に応じて食事量を調節したり、採血などを実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一部介助・全介助とその一人一人の状態を見ながら声掛けをしてケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人での排泄が困難な方には声掛けをし、誘導を行っている。ほとんどの方は自分のタイミングでできている。現在は歩行不能の利用者が一名おり、ほぼ全介助でテープ止めオムツを使用している	排泄チェック表をみながら利用者の状況に合わせて支援している。基本的にトイレ誘導を心掛けている。9人の利用者中、7人(5人が布パン、2人がリハビリパンツ使用)が自立し、1人(リハビリパンツ使用)が半介助、1人が全介助となっている。ポータブルトイレを利用している人はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には、水分の摂取方法や食事などの工夫をし予防に取り組んでいる。しかし、三分の1の利用者は医師からの処方便秘薬を使用している。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム ひだまり上郷

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回必ず実施している。体調不良や拒否があった場合は日をずらし入浴してもらっている。どうしても不穏な場合は無理に入浴はさせないこともある。	1人週2回の入浴とし、時間帯は午後1時半～3時を原則としている。毎回ではないが入浴を嫌がる傾向がある人については柔軟に対応している。異性介助を嫌う人は同性介助としている。使い慣れたシャンプーやボディソープを家族が持参する人もいるなど、個々にそった支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度や保湿に注意し、夜間は安眠できるよう声がけをし自由に任せています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が服薬に関しては理解し支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の希望に沿った支援が出来るよう心掛けている。気分転換に職員とドライブに出かける等の支援をしている。感染拡大の懸念もあり、ドライブも町内・市内を回る程度にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は職員が付き添って散歩に出かけたり、本人に行きたい場所・見たいところを聞いてドライブなどに連れて行っている。感染症の問題がまだ不安な為、人ごみに連れ出してはまだいない。	コロナ禍で外出支援が十分とはいえないが、春は花見、秋は紅葉と季節の風景をドライブで楽しんでもらっている。2、3人で市内をミニドライブすることもある。天気の良い日は事業所の周辺を職員と一緒に散歩している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる利用者にはお金を管理してもらっているが、現在は自分で管理できる状態の利用者はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族から手紙が届いたら職員が代読したり、本人の希望があればいつでも電話できるようにしている。		

令和 5 年度

事業所名 : グループホーム ひだまり上郷

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では利用者様に季節を感じられる物を制作していただき壁などに取り付け、くつろげるスペースを確保している。	共用の空間は白と薄茶色で落ち着いた雰囲気である。ソファ、食卓テーブル、テレビを設置している。天井は高く開放感があり、エアコンにより快適な温度を維持している。壁には季節感のある作品が飾りつけられている。全員が集い、体操をしたり、会話を楽しみながら過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間では利用者がゆっくりくつろいだり、自由に座って会話ができるようソファの配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人や家族と相談し自宅で使っていたものを居室に用意したりして居心地よく過ごせるように工夫している。最近では、位牌や写真を持ち込む利用者も増えてきた	居室はベッド、トイレ、洗面台、カーテン、エアコンが備え付けられている。テレビ、ラジオ、衣装ケース、仏壇、位牌、家族写真、自分の作品など自分の好みものを持ち込んで自分のペースに合った生活ができるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が安心安全に生活できるよう個々に本人や家族と相談し、環境整備に努めている。		